

正男氏からVX検出

マレーシア警察 猛毒の神経剤

【クアラルンプール共同】北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長の異母兄、金正男氏殺害事件で、マレーシア警察のカリド長官は24日、遺体から猛毒の神経剤VXが検出されたとの暫定結果を発表した。長官は記者団に「死因はVXだと述べ、毒殺が確実になった。韓国国防省は北朝鮮が化学兵器としてVXを開発・保有している」と分析。事件では大使館員らを含む北朝鮮国籍の少なくとも8人の関与が疑われており、北朝鮮の国家犯罪である疑いが濃厚になった。Ⅱ関連記事3面に

マレーシア警察はVXの入手経路の解明に全力を挙げる。逮捕した北朝鮮国籍の男や実行犯の女2人を追及するとともに、在マレーシア北朝鮮大使館に潜伏中と疑われている2等書記官らの聴取を引き続き求める。発表によると、マレーシア政府の化学兵器分析センターが検査を実施。目の粘膜や顔から採取した試料からVXが検出された。VXは微量でも殺傷能力が高く、日本のオウム真理教による殺人、殺人未遂事件でも使われた。化学兵器禁止条約(CWC)で製造、使用が禁じられているが、北朝鮮は加盟していない。

警察はVXが北朝鮮から持ち込まれたことも視野に捜査している。カリド長官は「少量で持ち込まれた場合、探知するのは難しい」と指摘、北朝鮮の国家としての関与については「捜査中だ」と述べるにとどめた。正男氏は13日、クアラルンプール国際空港で実行犯の女2人に襲撃され死亡。2人は正男氏の顔に素手で液体を塗りつけた直後に手を洗ったことが確認された。長官は24日、うち1人が犯行後、VXによる症状を呈していたと明らかにした。

長官は、正男氏の親族が一両日中にマレーシア入りするとした副長官の23日の北朝鮮しか考えられず、神奈川大の常石敬一名誉教授(軍縮)の話、VXは化学兵器禁止条約(CWC)で製造や保有が禁止されているため、VXそのものだけでなく、製造するための原材料の入手すら難しい。北朝鮮など条約に未署名の国が関与していることは明らかだ。危険で保管も容易ではなく、きちんと管理するためには軍などの大掛かりな組織が必要となる。それが可能で、さらに金正男氏を殺害して得をするのは北朝鮮しか考えられない。VXの検出にはそれほど時間はかからないはずだ。今回のタイミンクでの発表は、捜査に対して非難を続ける北朝鮮と対決していくと

たといい、VXの可能性もあるとみて鑑定を進めている。北朝鮮はマレーシアによる司法解剖に強硬に反対、遺体の即時引き渡しを要求したが、マレーシア当局は15日に解剖を行い、毒物の特定を進めていた。マレーシア政府の決意の表れではないか。塗りつけての使用可能井上尚英・九州大名誉教授(神経内科)の話、VXは油のような物質なので、塗りつけて使うことは可能だ。今回報告されている症状も、オウム真理教による襲撃事件の被害者のものとよく似ている。VXの揮発性は低いので、実行犯の女性の皮膚に吸収されるのを防ぐことは簡単だったとみられる。VXが使われた後は代謝物が血液に残るが、検出はやや難しい。おそらくマレーシア側は海外の検査機関に依頼したのではないか。そのために時間がかかったのだろう。